

本

講談社
読書人の雑誌

1
2016
JANUARY

祝！連載20周年
「鉄道ひとつばなし」特別版 原 武史
新連載
戦禍に生きた俳優たち 堀川恵子
「母親神話」の国、日本 竹信三恵子

平成28年1月1日発行(毎月1回1日発行 12月25日発売)第41巻第1号(通巻474号)

研究・開発、この人間的な営み



長谷川修司

会社経営のバイブルとして長く読まれている『マネジメント』（ピーター・F・ドラッカー著、上田惇生編訳、ダイヤモンド社、2001）には、「我々は何を売りたいか」ではなく「顧客は何を売りたいか」を問う、という有名なフレーズが出てきます。この「お客様本位」の考え方は、会社経営という大きな話だけでなく、実は私たちが日常的に行うプレゼンテーションにもそのまま当てはまります。プレゼンをする場面は今やいろいろな職業で頻繁に出くわすでしょうが、そのときに「何をプレゼンするか、何を聴衆にアピールするか」ではなく、「聴衆は何を聞きたがっているのか」を先に考え、必ずや評判の良いプレゼンになります。わかりやすくしてよかつたよと言われて、その結果、契約が成立したり昇進したりする可能性が広がること間違いありません。

拙著『研究者としてうまくやっていくには』（講談社ブルーバックス）のなかでは、研究者が行う学術的プレゼンでも上記の「お客様本位」の考え方で準備しなさいと書きました。研究者の場合には、学会でのプレゼンだけでなく、研究員としての採用面接、あるいは准教授や教授、グループリーダーへの昇格審査でのプレゼンなど人

生を左右する場面でプレゼンが決定的に重要になります。そのときに、聴衆が自分のプレゼンに何を求めているのか、あるいは聴衆の知識や関心はどうなのか、それを先に考え、それらに応じてプレゼン内容やスタイルが違ってくるのは当然です。それにもかかわらず、この「お客様本位」の考え方を認識している研究者は案外少ないようです。自分の成果をアピールするだけのプレゼンでは聴衆の心は離れていきます。たぶん、優秀なセールスマンは、お客様のニーズを汲み上げていますといったトークをしながら、最後には自分の売りたいものを売りつけるわけで、そのような戦略性とテクニクを意識するかどうかで違いが出るのは研究者に限らずどんな職業でも同じことだと想像します。

拙著では、研究者を目指す学生や若手研究者を讀者としてイメージしていますが、ビジネスなどいろいろな場面に応用できる「精神」を書いたつもりです。

研究者は、研究室に閉じこもって一人黙々と研究に没頭していると思われているでしょうが、実は、共同研究者や先輩、後輩との議論によって相互啓発されながら研究を進めています。また、自分一

人の力ではどうにもならないときに、自分の所属するグループや時には外部の組織の力を借りて研究を進めるといって成果を挙げることが出来ます。このように周りを巻き込みながら、方向性を持って他人の力を結集して研究なり仕事を進める力、いわば人間力と呼ばれている力が研究者にも重要です。これは、まさにビジネスの場でも同じはずで、教授から与えられた研究テーマが気に入らない学生はどうすべきか、それは、まさに会社の上司の方針が気に入らない場合、どう振る舞うか考える際のヒントになるはずで、上司の前で上司の方針に反する持論をどうとうと展開しても何の説得力もありません。さあ、どうしたらいいのでしょうか？

プロジェクト研究を主宰する立場になると、自分の学生や若手研究者に、いわば「歯車」となって研究してもらう必要が出てきます。そのときに、一人一人の学生の成長をどう手助けしながらプロジェクト全体を成功に導くか、これはまさに企業の中である程度の立場になったら必ず考えることと同じはずで、そのようなマネジメン

まに受身的な「歯車」として働くのではなく、プロジェクト全体のなかでの自分のミッションの位置づけを認識し、そのなかで全体にベストフィットするための創意工夫をしながら能動的に回る「歯車」として働くことで個人的にも成長できると、学生や部下には納得してもらい必要があると思います。このようなポジティブな意味での「歯車」としての経験は研究者として、あるいはビジネススマンとして若手を成長させる良いOJT (On-the-Job Training) になるはずで、最近、ノーベル賞受賞者が続出していることもあり、また、S T A P細胞事件が記憶に新しいこともあり、良い意味でも悪い意味でも研究者の人間的な側面が一般市民の目に触れる機会が増えました。研究や技術開発では、クールな秀才が論理的に仕事を進めるものだと思われがちですが、テレビドラマからでも想像されるように、いろいろな葛藤や迷い、悩みが常につきまとう、極めて人間的な営みなのです。ですので、ほかの職業と同じように、「良き市民」として常識的な振る舞いが求められるのは当然なのです。

（はせがわ・しゅうじ 物理学者）

映画化決定！

全世界で200万部突破！

三省堂書店神保町本店
海外文学・第1位
(8/20時点)



国を救った

数学少女

ヨナス・ヨナソン 訳/中村久里子
488頁 定価(本体1500円+税)

世界一物騒な女の子とおかしな仲間たちが、爆弾をめぐって大騒ぎ。波乱万丈、急転直下、抱腹絶倒のスウェーデン発！
笑撃コメディ第2弾！

絶賛！
この作者の作品を
読まないのは
人生の損失である

全世界で1000万部突破！

窓から
覗けた100歳老人

ヨナス・ヨナソン 2015年
訳/柳瀬尚紀 小説小倉門 第3位
定価(本体1500円+税)

西村書店 TEL.03-3239-7671
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-6